

2004年8月30日・31日 台風16号被害 笠岡市からのレポート

8月30日

大潮などの日は、満潮より1時間ほど前から見回りに出かける。でも、16号の報道は大型で、年に一度の大潮と重なると言う。「もっと前から出かせないと。」と夫と二人で食後はなしていたところ。午後10時金浦の竜宮荘からの放送で、避難勧告が聞こえた。まさかと思いながら夫と車ででかける。

生江浜では国道以北の海岸線が満潮まであと2時間足らずだということにもう海岸道路の路面の高さに近づこうとしていた。ここにパラペットはない。(写真)消防も福助興業さんも排水ポンプを設置、作動させていた。



吉浜水門土手方面にまわる。吉浜西水門の橋はひたひたに浸かっており、こしそうな勢いだった。桑田医院前の側溝に逆流している。満潮時、橋の上20cm冠水。(写真)



吉浜西水門横を通過して水があふれ出た。(写真)



水はあふれて、下道の集会所になだれ込む(写真)



東水門をまわった。墓原の前がもう冠水している。台風10号に続いての床上になりそうだ。ここは通れない。

金浦を回って、新川に出る。吉田川の水かさがかましている。県道路面近くまでに迫っている。避難勧告の出た金浦地区竜宮荘に行った。かつて魚市場だった魚竜さんの裏は吉田川河口に面している。竜宮荘横のパラペットの高さより28センチも低い。そこから海水がこれでもかと言うほどもと魚市場だった広間を通過して少路になだれ込んでいる。水がくるぶしまで来る。角の駄菓子屋さんには1人暮らしのおばあちゃん。浸入する水から電気器具を移動するのを手伝った。「光明院前の笠原さんが危ない！」の声に、思わず近くの消防団員の方に「1人で動けない。いってあげて！」とお願いした。「上少路が見つかった！！」と言う声に、急いで駆けつけると、久我邸の裏はすでに吉田川からの浸水で10メートルは通れない。カメラに収めて竜宮荘に帰りかけた。

魚竜の前が大変だ。さっきまでくるぶしまでのかさだったのが、足の付け根までになっている。竜宮荘からの避難勧告は続く。避難所になっている「ようすな会館」は大丈夫だろうか。

生江浜に帰る途中の県道は無事だったが、国道近くの職業訓練所跡周辺は浸水している。もう入れないほど。護岸から海水が上がった。中銀の方へ水が流れる。

国道からの侵入路は閉鎖されていた。

国道以北の生江浜も浸水。あつという間だったという。なすすべがない。



おじいちゃんの介護に忙しいKさん。おじいちゃんを背負って外に出ると、もうひざまで海水が来ている。（写真）



避難所の公民館までは距離がある。車は三台もう動かない。通り向かいのMさんがうちへおいでと救いの手を差し伸べた。どんなに助かっただろう。地盤沈下の少ないMさん宅も階段まで水が来たと言う。

自営業のFさんは機器を、Tさんは商品の陳列棚を海水に持っていかれたという。大型の機器は高額、今はリースで対応。生活の保障がほしいものです。（写真）



国道以南の生江浜護岸は、海水が超えることもなく、150センチのパラペットが守ってくれた。しかし4箇所陸甲から浸水、堤と護岸の磨耗箇所からの浸水、排水溝からの逆流などで、元漁業場跡地の家屋は浸水。トイレの対応が必要となった。

夫は生江浜漁港のパラペット沿いに異常がないか腰まで浸かりながら先端まで調査に行った。満潮は過ぎたが、一度ぬれた服を着替えて再び国道以北の生江浜をまわる。被災者の方で必要な人にはまず明日のトイレの汲み取りをお願いすべきと思い、聴いて回り、三時過ぎまで湾内を回る。環境課にFaxを流して汲み取りのお願いを済ませた。

8月31日

早朝より被災地を巡って、トイレ汲み取りの要・不要を聞き取り、環境課へ依頼電話・Faxすることに一日を費やした。生江浜地区被災地は夕べのうちに届出が済んでいたもので、それ以外、金浦と新川を歩いた。

特に新川は、吉田川護岸防波堤の要望が強い。又、避難場所に金浦小学校が指定されているが、とても夜間高齢者の歩ける距離ではなく、地域の世話人さんが、独断で近くの保育園に避難させた。翌日の今日、園長に連絡をしたら、早く避難所として使ってくださいとのこと。早速市の対策本部へ、行政として、正式に要請していただく様お願いした。

1軒1軒お訪ねして、話を聞くと一つ一つ問題点が見えてくる。Hさんの家の前、コンクリートが座の下に崩れ落ちてぼっかりと穴が開いている。県に早速調査と補修を依頼した。(写真)



県道より西一帯は盆地のように低くなっている。吉田川の増水した水は県道を越えて沿道の家々の横、床下、小路を通り抜けて新川地域を直撃した。裏庭の土と、塀を倒して水が通り抜けた。(写真)



倒された塀に干し物が並ぶ。(写真)



金浦竜宮荘は老人福祉施設で共同風呂がある。週三回の入浴は楽しみ。台風から一夜明けての31日、海水に浸かったボイラーが動かない。すぐ市へ報告。担当から連絡あり。2機とも取り替えていただくことになった。災害補助の適用となり、ほっとしている。(写真)今度の取り付けはもっと高い位置になるとのこと。



くたくたになって、家に帰る。夕飯を食べながら、私たちに何ができるかと考えた。一日歩きながら、どの家にも私を置いていきたい思いに駆られた。いくつからだがあっても足りない。夫が言った。「子供たちしかいない。」と。早速思いつくままに電話した。快く承諾を頂いた。友人の先生のご家族まで来ていただけることに。ありがたい。今日の疲れが吹っ飛んだ。